



## + はふえる、- はなぜへるしるしなの

### + は16世紀にオランダから

+ の記号がまだ使われていなかったころ、たし算は  $et$  という文字で表していました。たとえば、6 たす 3 は、 $6et3$  というように。  $et$  はラテン語で「~と」という意味です。ところが、16世紀のはじめ、オランダの数学者、ファン・デル・ホッケという人が数学の研究をしていたとき、  $et$  をたくさん書いているうちに、+ のような形になったのです。そして、+ を使ったほうが早くて便利だったので、+ を「たす」記号として使いはじめ、やがて、世界中に広まっていったのです。

### - のはじまりは、よくわからない

- の記号は、むかし、中世のヨーロッパの商人が、目方のちがいを表すのに用いたはかりの横木がヒントになって、使われはじめたという説があります。

また、ぶどう酒のたるから、ぶどう酒を出したあと、のこりの量をわすれずに示すために、- の線をたるにつけたのがはじまりという説もあります。

どちらにしても、こうした記号は、大勢の人たちが長い時間をかけて作りあげていったことができます。（監修 青木国夫）

